

<p>1 学校教育目標</p> <p>【分校訓】 円成(えんじょう): 笑顔を絶やさず、協力して、物事を最後まで成し遂げる</p> <p>【スクール・ミッション】 生徒一人ひとりの個性を生かし、地域・社会と連携・協働したキャリア教育等を通して、互いを認め、他者と協働して、主体的に地域・社会に貢献するとともに、豊かな人生を切り拓いていく人材を育成する。</p> <p>【教育方針】 知・徳・体・情の調和的発達を図り、自主性、社会性に富む心身共に健全な人間を育成する。</p> <p>【めざす学校像】 1 思いやりのある心豊かな生徒を育成する学校 2 主体的にキャリアを形成する力を育成する学校</p> <p>『町の小さな進学校』 ・地域行事への参加や地域連携教育を活用したキャリア教育の充実を図る。 ・基礎・基本を大切に学力の向上を図り、生徒一人ひとりの進路希望の実現をめざす。</p>

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>《学校運営》 ○昨年度は年間を通して学校Webページや学校広報誌による情報発信に継続して取り組み、保護者や地域との関係づくりに大きな成果があった。今年は、神楽等の地域の伝統継承活動を中心とした地域連携を推進し、開かれた学校づくりに取り組む。</p> <p>《教務》 ○「学習習慣の定着」は前年度の達成度4であり、具体的方策が有効だったと分析する。「読書活動の推進」は前年度末の達成度4であるが、生徒の読書活動の活性化がさらに求められる。「資格取得指導の充実」は前年度の達成度3ながら、生徒の積極的な受検姿勢は評価できる。</p> <p>《生徒指導》 ○よりよい人間関係づくりを身に付けさせ、いじめの未然防止につながるような活動(AFPYやいじめ予防教室等)を行っているが、人間関係の形成に悩む生徒が数名存在する。また、場や時に応じた言葉遣いや身だしなみ、スマホの使い方等の指導を全校体制で行っている。</p> <p>《進路指導》 ○アンケートによる生徒の満足度や3年生の進路決定の状況から、進路指導の取組は体系化されており、全教員で指導ができていけると言える。昨年度からはインターンシップや体験授業が再開し、3年間を通じた総合的な探究活動などによりキャリア教育の充実ができていく。</p> <p>《学年》 (1学年) 17名のうち12名が美和中学校、4名が岩国中学校、1名が平田中学校出身の生徒である。自然体験を通して、クラスメイトが交流することができた。これをきっかけにこれからの学校生活で良い人間関係を構築してもらいたい。中学時代には、学校に行きづらさを感じていた生徒も、欠席せずに登校しているなど、生徒間、教員との距離が近い小規模の良い環境の中で、大きく成長してほしい。 (2学年) まじめで節度と思いやりのあるクラスで、学習への取り組みもよく安定した学校生活を送っている。一方で、内気で積極性に欠ける一面もある。2学年に進級したことを受けて、下級生に対するリーダーシップの発揮が望まれる。クラスや学校全体の中でできる行動や声掛けを行うことを意識させたい。 (3学年) 資格取得や各種検定試験に取り組み、多くの生徒が合格した。クラス全体で資格取得やボランティア活動を推進していく環境を作っていく。また、自主学習ノートに取り組みせ、自立した学習習慣を確立させる。進路実現のために、個人面談を通して一人ひとりに支援をしていく。保護者や外部関係機関とも連携を密にする。</p> <p>《業務改善》 ○教職員の時間外在校等時間の平均が19時間40分と比較的良好である。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>【本年度重点を置いて取り組む目標】 1 基礎的・基本的な学力の定着と生きる力を育む授業の推進 「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」 2 豊かな心や社会性を育む教育活動の推進 「総合的な探究の時間」等を活用したキャリア教育、地域の教育資源を活用した体験的な学習、地元小中学校と連携した取組等 3 坂上分校の魅力の創造とその積極的な発信</p> <p>【生徒会チャレンジ目標】 「凡事徹底」</p>

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	開かれた学校づくりの推進	「坂校だより」の毎月の発行、ホームページの定期的な更新、学校行事の報道機関への通知等を通して、地域や保護者への広報活動を活発にする。	アンケートで「学校は必要な情報を提供している」と回答した保護者の割合が、 4 85%以上であった 3 75~84%であった 2 65~74%であった 1 64%以下であった				
	地域と連携し、地域の活性化に貢献する学校づくりの推進	神楽等の地域の伝統継承活動に授業で取り組むほか、地域行事へのボランティア等での参加を通して、地域理解を深め、地域に貢献する人材を養う。	アンケートで「学校は地域との連携に努めている」と回答した保護者の割合が、 4 85%以上であった 3 75~84%であった 2 65~74%であった 1 64%以下であった				
	『指導と評価の一体化』のための学習評価へ取り組む	『指導と評価の一体化』のための学習評価について各教職員が理解し、適切な学習評価に取り組む。	学習評価に関する検証・見直しを、 4 4回以上実施した 3 3回実施した 2 2回実施した 1 1回以下であった				
教務部	学習習慣の定着	家庭学習の習慣が身に付くよう指導し、「マナトレ」や、生徒の学力に合った学習課題を課すことで、家庭学習時間が増えるようにする。	アンケートで、「家庭学習の習慣が身に付いている」と回答した生徒の割合が、 4 65%以上であった 3 55~64%であった 2 45~54%であった 1 44%以下であった				
	読書活動の推進	コモンホールの図書を活用し、「図書だより」の発行、学級文庫の設置、「ライぶらり」企画等を行うことで、読書の楽しさを実感させ、より多くの書物にふれさせる。	「図書だより」で紹介されたコモンホールの図書の冊数が、 4 50冊以上であった 3 40~49冊であった 2 30~39冊であった 1 29冊以下であった				
	資格取得指導の充実	資格取得の意義を頻繁に伝え、取得に向けた課外や指導を実施し、資格取得を奨励する。	全校生徒数に対して、2学期末までの資格合格者総数の割合が、 4 50%以上であった 3 40~49%であった 2 30~39%であった 1 29%以下であった				
生徒指導部	自立(律)心を育む生徒指導の充実	自ら考え、その「場に応じた最適な判断」について考える機会を、全校集会やLHRで設ける。	アンケートで「学校は自立心を育むような指導をしている」と回答した保護者の割合が、 4 90%以上であった 3 70~89%であった 2 50~69%であった 1 49%以下であった				
	安心・安全な学校教育の推進	教育相談や、日々の学校生活を観察し、いじめ予防や早期発見を心がける。スクールカウンセラーや外部機関との連携を図る。	アンケートで「学校はいじめの早期発見、早期対応に努めている」と回答した保護者の割合が、 4 90%以上であった 3 70~89%であった 2 50~69%であった 1 49%以下であった				
	保健指導の充実	毎朝の健康観察や学校生活の状況から生徒ひとり一人の心身の健康状況把握に努め、適切に対応する。保健だよりや掲示物にて、心身の健康に関する意識の向上に努める。	アンケートで「保健だよりに興味を持って読んでいる」と回答した生徒の割合が、 4 60%以上であった 3 50~59%であった 2 40~49%であった 1 39%以下であった				

進路指導部	生徒の個性を尊重した進路指導の充実	各学期ごとの進路希望調査や個別面談を実施し、生徒の適性を踏まえた指導・助言をする。	アンケートによる生徒の満足度が、 4 85%以上であった 3 75~84%であった 2 65~74%であった 1 64%以下であった		
	キャリア教育の視点に基づいた進路指導の充実	年間計画、全体計画に基づいた進路学習を実践するとともに、工夫・改善する。	アンケートで「『総合的な探究の時間』が進路実現に役立っている」という生徒の回答が、 4 85%以上であった 3 75~84%であった 2 65~74%であった 1 64%以下であった		
	進路意識を高めるための情報発信の充実	総合的な探究の時間や、進路に関する掲示物、毎学期発行する「進路便り」等を通して、進路を探究するよう努める。	アンケートで「進路について考える機会が増えた」という割合が、 4 85%以上であった 3 75~84%であった 2 65~74%であった 1 64%以下であった		
1学年	生徒にとって居心地のよい環境をつくる	面談や学校行事を通して、お互いを尊重しあう心を醸成するとともに、SC・支援員・教職員と連携をとりながら1学年の学校生活を守る。	アンケートによる達成率が、 4 80%以上であった 3 60~79%であった 2 45~59%であった 1 45%以下であった		
	基礎学力の定着	終礼時にマナトレ等を利用し、学習習慣を確立させるとともに、基礎学力を向上させる。	学年末に行う基礎力診断テストが入学時の結果よりも改善した生徒が 4 80%以上であった 3 60~79%であった 2 45~59%であった 1 45%未満であった		
2学年	学校全体を考えた主体的な取り組みを意識させる	学習や課題を通して、主体的な提出物の管理や学習の調節を促す。また行事や生徒会活動における積極的な取り組みや、他学年の生徒を配慮した行動を意識させる。	アンケートを実施し、「提出物の締め切りを自分で把握できた」「他学年の生徒のために行動できた」の設問に対する肯定的回答の割合が 4 85%以上であった 3 70~84%であった 2 55~69%であった 1 55%未満であった		
	進路実現のための準備を行う	総合的な探究の時間での調べ学習やインターンシップを通して、社会人として必要な能力を養うとともに、労働や社会貢献についての理解を深め進路意識の涵養を図る。	アンケートで「進路希望先を決定した」と回答した生徒の割合が、 4 85%以上であった 3 70~84%であった 2 50~69%であった 1 49%以下であった		
3学年	進路実現	個人面談を行い、生徒一人ひとりの希望を把握し、適切な支援を行う。	進路が決定した生徒の割合が 4 90%以上であった 3 80~89%であった 2 70~79%であった 1 70%未満であった		
	生徒の自律を支援する	資格取得や各種検定、ボランティア活動への参加を促す。自主学習ノートなどの取り組みを支援する。	年度末にアンケートを実施し、実行できた割合が 4 80%以上であった 3 65~79%であった 2 50~64%であった 1 49%未満であった		
	「円成」を体現する人格形成	学校行事を通して、クラスがまとまり、各自の役割を果たせるよう支援する。	年度末にアンケートを実施し、実行できた割合が 4 80%以上であった 3 65~79%であった 2 50~64%であった 1 49%未満であった		
業務改善	時間外業務時間の削減を推進し、教員の健康維持を目指す。	時間外業務上限である1箇月45時間及び1年360時間内の勤務とする。業務量によっては臨時的に1箇月100時間及び1年720時間内の勤務とする。(ただし要件を満たすこと)	昨年度に比較し、平均時間外業務時間が減少した教職員が 1 40%以上いた。 2 30%以上いた。 3 20%以上いた。 4 20%未満であった。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

<p>【成果】</p> <p>《学校運営》</p> <p>《教務》</p> <p>《生徒指導》</p> <p>《進路指導》</p> <p>《業務改善》</p> <p>【課題】</p> <p>《学校運営》</p> <p>《教務》</p> <p>《生徒指導》</p> <p>《進路指導》</p> <p>《業務改善》</p>

7 次年度への改善策

<p>《学校運営》</p> <p>《教務》</p> <p>《生徒指導》</p> <p>《進路指導》</p> <p>《業務改善》</p>
